

2019
おもろ
チャレンジ

高齢者にバズる「広場舞」から 健康寿命延伸のヒントを探る

文学部 4年

平井 良江

中国

2019年8月20日-

2019年9月24日



渡航概要と内容

上海の闸北公園、涼城を中心に、広場舞コミュニティの役割を明らかにするためのアンケート調査、聞き取り調査を行った。また、闸北公園に関しては、他の活動と広場舞の関係性を明らかにするため、朝の時間帯の公園内外における活動調査も並行して行った。今回の調査は、①広場舞が流行する背景、②広場舞コミュニティ内の人間関係、③広場舞形態ごとの参加者の特徴、④広場舞が高齢者に与える影響、の4点を中心に調査した。

流行の背景としては、特に女性の退職年齢の早さ、人口政策による孫の数の減少、多くの兄弟姉妹を持つことによる親の介護負担の分散化、経済成長による年金増加等の環境的背景に加え、組織に属することによる社会的身分獲得の欲求等の精神的背景がある。また、広場舞団体の内部は分化が進んでおり、始めた時期や踊りの習熟度、出身地等でグループ化されている。専門性の高い指導型の踊りでは、始めた時期がグループ形成において特に重要であり、単純な動作を先生の後ろで踊る模倣型の踊りでは、性格の相性や出身地が特に重視されていた。模倣型は60～70代が中心で、指導型は50～60代が中心の世代であり、指導型ではさらに若い年代も多くみられた。こうした指導型は近年の流行であり、広場舞が低年齢化していることを示している。また、広場舞に求めるものも、健康からスタイルの美しさへと変化するなど、世代間でギャップが見られた。聞き取り調査によると、広場舞によって肩こり解消や体重減少などの健康的効果に加え、新たな友人の獲得や、家事や介護の息抜きになるとの声があった。現在の生活満足度に関するアンケート調査では、ほとんどの人が満足・非常に満足を選択するなど、広場舞が高齢者の幸福度向上に寄与している可能性が示された。

今回の調査で苦労した点は、①調査対象者と信頼関係を築くのに時間がかかった点、②中国の

高齢者が調査に協力的なあまり、アンケートを捏造してくれそうになった点、③方言が分からなかった点である。特に中国人は、親しみを持つ人とそうでない人に対する対応が全く違うため、調査のためには毎日広場舞団体へ顔を出し、信頼関係を築くことが肝要であった。ただし、団体の人数が多いため認知してもらっただけでも苦労を要した。観察していると、広場舞団体における先生の立ち位置はかなり高く、先生がかなり強い発言権を持っていることが分かったため、後半の調査では先生と信頼関係を築くことに注力し、比較的スムーズに調査が行えるようになった。2点目の問題に関して、中国で行われている満足度調査などは今でも捏造が多く、文革の時代に学生時期を迎えた世代は自身で論文を書いた経験がないため、アンケートを捏造することに違和感を抱いていないようだった。そのため、「必要な枚数だけ書いてあげる」「あなたの論文が書きやすいように答えてあげる」などと言われ、好意は嬉しかったが説明に少し手こずった。また、上海人に聞き取り調査をした際、上海人同士が上海語を話し始めて聞き取れない場面が多かった。そこで、一部上海人の友人に通訳を頼んで聞き取り調査を行った。ただ、上海人以外でなまりの強い標準語を話す人の聞き取り調査に関しては、流暢な標準語を話す人を交えて行うことで、ある程度話を聞くことができた。

また渡航中、公園で高齢男性集団の立ち話を聞いていたところ、内容に政治や生活への不満が入っていたこと、香港のデモが過激化していることなどが原因で、のちに私服警官から二度とあの公園には近づくなと警告を受けた。そのため、調査地を変更することを余儀なくされ、調査に遅れが生じた。



渡航を通じて感じたこと・学んだこと

現地に行ってからには想定外のことが多く、常に計画の修正が求められた。渡航前に集めた情報や計画は、山道を歩くときの地図くらいにはなってくれるが、どう歩くのかは自分次第である。倒れた木が道をふさいでいたり、新しい道ができていてどちらへ進むべきか判断がつかなかったり、どうすれば目的地に到達できるのか一々頭を悩ませて、工夫して進んでいかなければならない。ただ、実際に現地の人のお話を聞きながら臨機応変に計画を変えていくのは、想像以上に楽しく、発見も多かった。

本来、私は夜の広場舞団体を複数個所で調査する予定であった。ただし、一晩に行ける場所は一か所、しかも雨が降ったら活動がないという制限に加え、調査地の変更を強いられたため、十分なデータがとれない問題に直面した。そこで、場所を一か所に絞り、そこで複数の広場舞団体を調査するよう変更し、朝の公園調査も加えることでより多くのデータをとろうと考えた。同一地点で行われる広場舞を調査することで、団体間の人々の移動やトラブルなどの情報を得ることができ、朝の公園調査では、時間帯ごとに現れる広場舞の種類が異なり、年齢層も異なること等が明らかになった。試行錯誤し、自分で決めたことだからこそ、新たな発見ができた際に達成感や充足感が強まるのだと思う。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

まずは、広場舞や健康意識などについての調査を進め、日本の高齢者が幸せだと感じながら余生を過ごすヒントを提示できる卒業論文を書きたい。さらに、今回の調査で特に中国の公園の在り方が非常に魅力的に映った。広場舞に限らず、公園では書道や太極拳、健康器具を用いた運動、バドミントン、合唱、楽器演奏等、多くの健康的・文化的活動が行われている。こうした活動を通じて互いに知り合い、地域のコミュニティができていくように感じた。日本にも公園はたくさんあるが、多くは小さく、手入れもされておらず、閑散としている。せつかく地域の中に公共空間があるにもかかわらず、誰も利用していないのは非常にもったいない。公園が地域交流の場として活用されれば、老人の孤独死予防や世代間での文化の継承、対面コミュニケーションの増加などに有効的に作用するのではないだろうか。今後は、日本の公園と世界の公園の環境や利用方法の違い等も調査し、より豊かな公園を作る活動をしていきたいと考えている。



本プログラムでの渡航を考えている学生へのアドバイス

行けば何とかなるので、とりあえず自分がやりたいことを熱意溢れる文章で企画書にまとめて提出してみたらいいと思う。ただの旅行とは違った視点から物事を見ることができるので、想像以上に新しい発見ができ、楽しい調査ライフを送れるはず。また、調査の段階で、普通に日常生活を送っていたら出会えなかったであろう人と知り合い、話し込み、互いを気に掛けあう関係になれることはとても素敵なことだと感じる。安全にだけ気を付けて、自分の興味関心に素直に突き進んでください。

主な奨学金の使途

- *滞在費
- *現地交通費
- *渡航費
- *海外旅行保険 など

